

# Daily Macro Economic Insights

商業動態統計(2023年7月速報)

— 猛暑効果・イベント再開により小売業販売額は増加 —

PwC Intelligence Japan チーフエコノミスト、執行役員 片岡 剛士  
シニアエコノミスト 伊藤 篤



## 小売業販売額(2023年7月速報)は前年比+6.8%、前月比は+2.1%

経済産業省から商業動態統計(2023年7月速報値)が公表された。2023年7月の結果をみると、卸売業と小売業を合わせた商業販売額は49兆5,620億円、前年比+1.3%となった。卸売業は35兆6,380億円、同-0.7%、小売業は13兆9,240億円、同+6.8%であった。季節調整済前月比は、卸売業が+1.3%、小売業が+2.1%である。卸売業は自動車卸売業、食料・飲料卸売業、医薬品・化粧品卸売業が大きく増加した。一方で各種商品卸売業、鉱物・金属材料卸売業が大きく減少している。また小売業について業種別にみると、自動車小売業、その他小売業が大きく増加した。経済産業省は小売業販売額の基調判断を先月に続き「上昇傾向にある」と維持している。

図表1は卸売業、小売業の季節調整済前月比に加えて、業態別の販売動向について記載している。百貨店販売額は前年比+7.6%、スーパーは同+5.2%、コンビニは同+5.2%、家電大型専門店は同+5.0%、ドラッグストアは同+10.2%、ホームセンターは同+5.2%と、全ての業態で増加した。百貨店は盛り返しており、食堂・喫茶、家庭用電気機械器具の消費が堅調である。コンビニ販売額は2か月ぶりに前年比・前月比でともに増加した。家電大型専門店も増加に転じ、ドラッグストアは堅調な増加を続けている。ホームセンターは5月・6月と前年比減少となったが7月は増加となった。7月以降、猛暑といった季節要因や久方ぶりに開催される夏祭り等の各種イベントは小売業販売額には追い風となることが期待されたが、そうした影響が具体的に形となって表れたとみられる。

図表1: 商業動態統計の概要

(単位: %)

|      |    | 卸売業  |      | 小売業  |      | 百貨店   |      | スーパー |      | コンビニエンスストア |     | 家電大型専門店 | ドラッグストア | ホームセンター |
|------|----|------|------|------|------|-------|------|------|------|------------|-----|---------|---------|---------|
|      |    | 前月比  | 前年比  | 前月比  | 前年比  | 前月比   | 前年比  | 前月比  | 前年比  | 前月比        | 前年比 | 前年比     | 前年比     | 前年比     |
| 2022 | 1  | 1.7  | 9.2  | -0.4 | 1.1  | -13.4 | 14.5 | 0.4  | -0.3 | -0.8       | 2.9 | -2.5    | 5.7     | -2.6    |
|      | 2  | 0.7  | 8.6  | -0.1 | -0.9 | 1.6   | -1.8 | 2.0  | 1.2  | -1.1       | 0.6 | -2.0    | 4.5     | -4.1    |
|      | 3  | 1.0  | 7.2  | 0.9  | 0.7  | 7.5   | 4.2  | -1.5 | 1.3  | 0.2        | 1.7 | 1.6     | 4.6     | -2.2    |
|      | 4  | 0.4  | 6.7  | 0.4  | 3.1  | 1.8   | 18.2 | -0.4 | 0.6  | 0.5        | 2.7 | 0.7     | 3.1     | -1.5    |
|      | 5  | -0.2 | 10.6 | 0.7  | 3.7  | 3.3   | 55.3 | 0.0  | -1.1 | 0.5        | 3.5 | -3.9    | 1.7     | -3.9    |
|      | 6  | 1.1  | 8.8  | -0.4 | 1.5  | -0.3  | 11.2 | -0.2 | -1.2 | 0.3        | 4.2 | 2.8     | 3.3     | -0.7    |
|      | 7  | 0.1  | 5.8  | 0.9  | 2.4  | 1.7   | 8.9  | 1.0  | 1.3  | -0.5       | 3.4 | -3.9    | 6.8     | -2.2    |
|      | 8  | 0.3  | 9.8  | 0.2  | 4.1  | -0.1  | 24.7 | -0.3 | -0.5 | -0.2       | 5.2 | -2.3    | 5.3     | -1.1    |
|      | 9  | 0.4  | 8.5  | 1.1  | 4.8  | 1.8   | 19.1 | 1.2  | 0.5  | 0.1        | 2.3 | 6.4     | 5.6     | -3.2    |
|      | 10 | -0.6 | 5.7  | 0.4  | 4.4  | 2.0   | 10.9 | 1.0  | 2.8  | 3.9        | 6.5 | 0.1     | 6.0     | 1.7     |
|      | 11 | -0.3 | 4.4  | -0.2 | 2.5  | -1.5  | 4.1  | 0.0  | 2.6  | 0.9        | 7.9 | 0.3     | 7.9     | -1.3    |
|      | 12 | 0.4  | 3.6  | 0.3  | 3.8  | 0.5   | 3.7  | 0.2  | 4.2  | -0.1       | 3.9 | 2.5     | 11.1    | 2.9     |
| 2023 | 1  | -2.6 | 1.2  | 0.8  | 5.0  | -4.5  | 14.4 | 0.3  | 2.5  | -0.4       | 4.1 | -0.3    | 5.0     | -1.4    |
|      | 2  | 1.5  | 2.4  | 2.1  | 7.3  | 6.0   | 18.8 | -0.3 | 1.1  | 0.8        | 6.2 | 1.3     | 5.6     | 0.1     |
|      | 3  | 0.2  | 0.8  | 0.3  | 7.2  | -2.0  | 8.6  | -0.8 | 1.7  | 0.0        | 6.0 | -4.6    | 7.8     | 0.3     |
|      | 4  | -0.5 | -0.7 | -1.1 | 5.1  | 0.7   | 7.6  | 1.5  | 4.4  | -0.4       | 5.3 | -3.9    | 9.0     | 0.4     |
|      | 5  | -0.1 | 1.1  | 1.4  | 5.7  | 1.1   | 5.3  | 0.5  | 3.2  | 1.1        | 5.5 | -4.7    | 9.0     | -2.0    |
|      | 6  | -0.7 | -1.9 | -0.6 | 5.6  | 0.2   | 5.7  | -0.4 | 3.8  | -1.8       | 3.6 | -6.3    | 9.4     | -1.8    |
|      | 7  | 1.3  | -0.7 | 2.1  | 6.8  | 3.4   | 7.6  | 2.3  | 5.2  | 1.2        | 5.2 | 5.0     | 10.2    | 5.2     |

(注) 前月比は季節調整済指数の前月比である。(出所) 経済産業省「商業動態統計」より筆者作成。

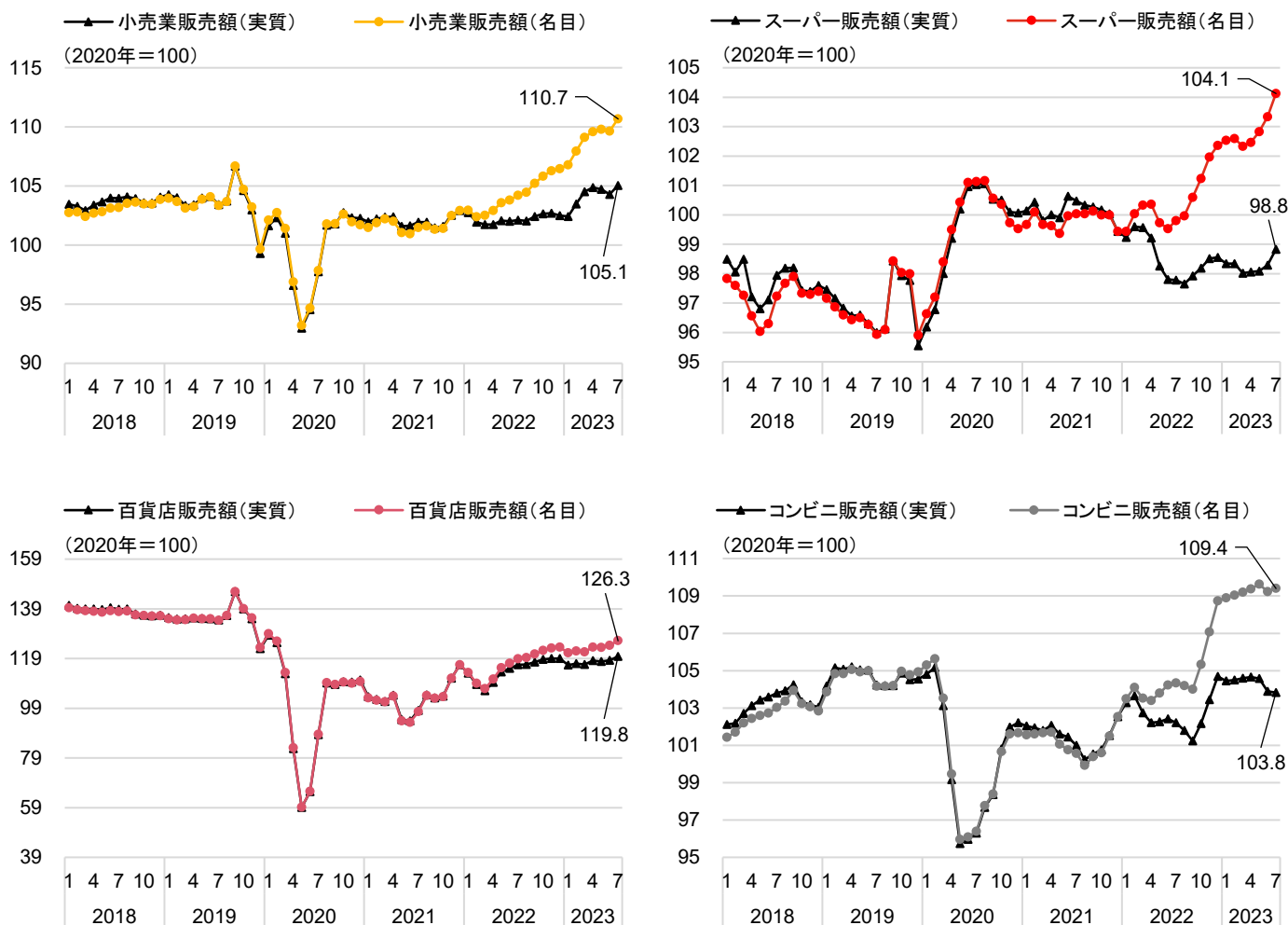
## 実質小売業販売額は鈍化基調がより明確化

昨今の販売額の動きには価格上昇による影響が一定程度作用している。図表2では、試みに総務省「消費者物価指数」の総合指数(季節調整済、2020年基準)で名目販売額指数(2020年基準)をデフレートし、後方3か月間移動平均をとった実質販売額指数と名目販売額指数の推移をみている。

小売業販売額指数(左上)の動きをみると、先月まではやや頭打ちの傾向であったが7月は再び増加している。実質指数は、2022年末まではCOVID-19に伴う公衆衛生措置の影響もあり、2020年8月以降は横ばい圏内で推移していたが、今年に入り明確に増加して、7月に再度増加したと考えられる。百貨店販売額指数(左下)は名目・実質ともに緩やかな増加基調で推移している。スーパー販売額指数(右上)の動きをみると、名目販売額指数は水準としては2020年8月を上回るが、物価上昇を考慮に入れると、2020年8月をピークとして全体として低下トレンドの中で、足元では持ち直しの途中段階にある。コンビニ販売額指数(右下)については、5月から6月にかけて名目指数・実質指数ともに減少した。7月は名目指数は持ち直したものの、実質指数は引き続き低下したと考えられる。

実質でみた小売業販売額は2023年1月から4月までは堅調に増加したが、5月・6月は増加基調が一服し、7月に再び増加したとみられる。7月に続き8月も増加が続く展開になるか注目である。

図表2: 小売業、百貨店、スーパー、コンビニ販売額(名目、実質)の推移



(注) 実質値は総務省「消費者物価指数」から季節調整済の総合指数を用いて名目値をデフレートした値。  
 名目・実質値ともに後方3か月移動平均値。(出所) 経済産業省「商業動態統計」より筆者作成。

**片岡 剛士**  
 チーフエコノミスト、執行役員  
 PwC Intelligence  
 PwCコンサルティング合同会社

**伊藤 篤**  
 シニアエコノミスト  
 PwC Intelligence  
 PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク  
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

**PwCコンサルティング合同会社**

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel:03-6257-0700